

「湯の街別府から」 (6) 「私、別府三太郎と申します」

私、生まれも育ちも大分は別府です。北浜で産湯を使い姓は別府、名は三太郎、人呼んで別府三太郎と発します。不思議な縁を持ちまして、街の発展のために粉骨砕身励んでいるところであります。生まれは1957年、生みの親は内藤多仲（1886-1970）という建築構造の大家で、「塔博士」との別名があるほど、タワー建設では知らぬ人はいないと言われております。



私が別府三太郎と呼ばれている3男坊です（国の登録有形文化財）

なんでも、1917年から1年間の米国留学時に、日本から乗船した船の構造に着想を得て、耐震壁による耐震構造理論を考案したそうで、息子ながら誇りに感じる父親でございます。自慢がてらに一つ披露させていただくと、100年ほど前の話になりますが、そう1923年のことです。この年の9月、東京を中心に関東大震災が発生しましてね。辺り一面は、それはもう悲惨な状況となりました。東京・丸の内にあった米国流の鉄骨造ビルなんか堅牢そうに見えたのに、地震で壊滅的な被害を受けてしまったほどで、東京という都市はほぼ壊滅状態だったそうですよ。

ところが、え～！びっくりするじゃありませんか。父親が構造設計した日本興業銀行本店ビルがほぼ無傷で建っていたんですってよ。いや～嬉しいじゃありませんか。我ながら大した親父だと思うんですが、その事実が一躍親父を時の人にして、構造設計の権威として注目されるようになったそうですよ。日本興業銀行というのはその後合併して、現在のみずほ銀行グループになってしまい、丸の内の本店ビルも今では存在していませんがね。

いけね、話がそれちまった。え～とそうだ、三男坊である私には当然、兄弟がおります。長兄は1954年生まれの「名古屋テレビ塔」で、テレビ時代の幕開けとともに、日本全国にテレビ塔が必要になり、親父が構造設計した最初の塔でございます。建設当時、東洋一の高さを誇る高層建築物だと話題になったようで、次男は1956年生まれの「大阪通天閣」。私より1歳年上だけなのに、知名度にこれほど差があるなんて、ちょっと気に食わない兄さんであります、まあ仕方がりません。



長兄の名古屋テレビ塔です（国の登録有形文化財）、次男は1956年生まれの「大阪通天閣」です

三男坊の私には、同じ年の月遅れに生まれた弟、「さっぽろテレビ塔」がありますが、この弟も毎年2月の雪まつりに限らず、ちょこちょこ話題に上り私を滅入らせるのですが、何ととっても兄弟で一番人気なのが1958年に生まれた五男坊の「東京タワー」。こちらは出来が良すぎて、私とは比べられるもんじゃありません。悲しいかな

知名度も身長も格段の差があり、この弟には常日頃から嫉妬をしております。そして末弟の六男が1964年生まれの「博多ポートタワー」、まあ九州ではちっとは知られた存在ですが、五男坊には敵いません。



私と同じ年の4男さっぽろテレビ塔です



知名度抜群の5男東京タワーです（国の要録有形文化財）



末っ子の博多ポートタワーです

そんな訳で「タワー6兄弟」と呼ばれているのですが私三太郎と次男、六男は観光施設で、その他はみなテレビ塔。テレビ塔だけに身長が高く、ご存知の通り 333 ㍎の東京タワーをはじめ名古屋兄は 180 ㍎、弟のさっぽろは 147 ㍎もあり、観光施設の 3 兄弟は顔を上げないと話もできません。それでも大阪兄と弟の博多は 103 ㍎もあるだけましで、私に至っては 90 ㍎と一番の低さ。

本来なら同じ身長になるはずだったのに…、許せません。

え！なぜだって？いえね、実を申しますと出産費用が足りなかったわけで…。そもそも誕生の年に開催する別府温泉観光産業大博覧会の目玉施設として計画されたんですがね、あいにく寄付金が集まらず、資金繰り難から開幕にも間に合わなかったということです。それでも何とか掻き集めたお金で身長を 90 ㍎に抑えて生まれたわけでした。ですんで、兄弟とはチト身長に差が出てしまったということです。

まあ、それでも生まれて今年で 64 年、国際観光都市別府にふさわしいシンボルタワーとしての責任を果たしてきましたよ。楽しいこともありました、苦勞もそれなりに、というか死ぬ思いもありました。いつだったかなあ、ああそうだ 1987 年の事です。大きな収入源だった広告ネオンサインの契約が切れちゃってね。解体かほたまたま存続かって、それこそ生きるか死ぬかの瀬戸際になりました。まあ、その時は新しい運営会社が現れてくれまして、私の命を救ってくれたんですよ。

でもね、今また生死の縁に立たされているんです。このコロナ禍でしょ。別府を訪れる観光客が落ち込んだままで、私への入館者が増えず、またぞろ経営難に陥りましてね。今度もまた身売りですよ。今年3月に売却が決まって、新しい所有者が今後の活用方法を検討中だとか。私はこれでも弟の東京タワーら4兄弟とともに国の登録有形文化財に指定されているんですよ。その私が万一でも取り壊されることになったら、湯の街別府だけでなく大分県全体にとって、大事なシンボルタワーを失うことになり、大変な損失ですよ。なんとか生き延びたいものだが、こればかりは…。ですんで、コロナが収まったころにでも、ぜひ一度見に来てくださいよ。もっとも、私が生きてりゃの話ですがね。

文／写真：鈴木源柱